

どなたでも自由にとって下さい。



2015年冬・43号

信条・世に媚びず・粋にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行 〒583-0018
大阪府藤井寺市西古室 2-8-13
TEL・FAX 072-954-3312 吉田 進
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://www.kawaraban.ne.jp/>
E-mail : info@kawaraban.ne.jp



Bangladesh is the poorest country in Asia, having gained independence from Pakistan. A medical student from Japan, who had been sent to Bangladesh, said, "I want to build a primary school." He sent the first fund, but it didn't reach the site. He sent it to the contractor, but it was stolen. He sent the third fund, and a primary school was built. It was a sight from post-war Japan. Even if you fix the rickshaw, it's not the same as the rickshaw in post-war Japan. This country is not such a society, is it?

CONTENTS

私はあきらめない	2
安保法制で自衛隊員は捕虜扱いにならぬ	3
違憲安保法制を問う	4
皆さん160億円ボーナスの ソフトバンク携帯から乗り替えよう	5
温暖化ガス削減を 口実にした原発再稼働の欺瞞性	6
岩名雅記のCmジャーニー ^⑱ 生きているモノたち	7
洋画家（独立美術協会会員）林敬二の世界	8

家庭でできる健康アジアメニュー ^④ チングリ・マスのバジ	9
上海在住日本人見聞録 ^⑤ 上海の小さな公園に佇む日本人の銅像	10
京都夏の風物詩大文字の送り火	11
世界の国と街を訪ねて ^⑰ ニューゼaland	12
歴史人物私談 ^⑳ はやくお出でよ水戸のご隠居	13
私が愛した街 ^㉑ 大垣・芭蕉が心を寄せた街	14
老々介護	15
恭子の日記 ^④	16

私はあきらめない

鎌倉市

塚越敏雄



安保法が強行採決によって成立した。国民過半数の反対

や、「憲法違反」の意見を無視して。安倍政権の強引な手

主権者の1人として行動を

法は、戦争する国づくりと、立憲主義・民主主義破壊に進んでいる。私たちは何をしたいけばよいのだろうか。

昨年12月、私は年賀状替わりに次のような葉書を出した。「アベノミクス」を叫ぶ選挙にだまされ、安倍政権が勝てば、彼らがねらう「戦争できる国づくり」が進んでしまうという危機感からだ。

何かしなければと

昨年出した葉書

私は、敗戦2年後、横浜市で生まれました。

焼夷弾が落とされる中を逃げ回った母。飢えに苦しみながら帰国した父。その命があつて生まれたのが私です。母は、「日本がしてきたことを考えるとアジアの国に観光旅行に行くことなど決してできない」と言っていました。そして、幼い私に、「2度と戦争などしてはいけない」と言い聞かせてくれました。

戦後69年間、憲法9条が

ある日本は戦争で他国の人を殺すことも、自国の戦死者を出すこともなく過ごしてきました。ところが、安倍首相は憲法9条の解釈を一方的に変え、「集団的自衛権を行使できる」という閣議決定をしてしまいました。行使すれば、報復として、日本人に対するテロも起きかねません。

今回の衆議院選挙後には、集団的自衛権行使を現実化するために法律改定を行おうとしているそうです。

日本の進路を大きく変える決定を、憲法改正なしに行えば、民主主義の否定であり民主主義の破壊だと思っています。それなのに、政権は今回の衆議院選挙を利用して、それを実現しようとしています。

子や孫、その後の世代のためにも賢明な選択をし、少しでもまともな新年を迎えたいと思います。

葉書に反応があった

娘も初めて国会前へ

こんな葉書がどれほどの意

味があるかはわからない。でも、何かしたいと思った。うれしいことに、何通かの反響があった。その後、集会やデモではプラカードを作り友人を誘った。1人より2人、3人にしていくことが必要と思ったからだ。友人はやがて政権寄りのNHKに抗議の電話をかけるようになった。

娘には、どうして「安保法制」に反対なのかを話した。身近な若い人に自分の考えが伝わらなかつたら、他人にわかつてはもらえないと思つたからだ。話すことで、もつと誰にもわかりやすく伝わるものが必要と感じ、リーフレットを作った。娘は、友人にそれを配ってくれた。その後、娘は生まれて初めて「戦争法案反対」の国会前集會に私や妻と一緒に出かけた。8月30日には、1人で、国会前に出かけた。

1人のできることは小さい。けれども、必要なのは、主権者の一人だと自覚し連帯していくこと、この国の過去と未来をしっかりと見つめ、自分ができる行動をしていくことではないだろうか。「私は、あきらめない」。

岸田答弁の意味するもの

7月1日の安保法制の審議で、印象的な質疑があった。辻元清美議員「後方支援中に自衛隊員が捕まったら（ジュネーブ条約上の）捕虜になるのか」岸田外務大臣「捕虜の扱いにはならない」。この質疑こそ、安保法制の本質を表したものと考える。

辻元議員といえば安倍総理の天敵として知られ、「大げさなんだよ、早く質問しろよ」というヤジを飛ばされ、謝罪を引き出した。これが憲法学者3人の「違憲」答弁とともに、審議の流れを変えたことは間違いない。さらに中谷防衛大臣からは「憲法をこの法案に適用させる」、菅官房長官からは「（合憲とした憲法学者は）3名。だけど数じゃない」などの迷言も引き出している。

冒頭の辻元議員の質疑を知ったのは、某保守系サイトだった。岸田大臣が「ジュネーブ条約の適用外」を認めたことで、保守層に動揺が走ったのだ。

これまでは自衛隊が後方支援できるのは、「過去も未来

も戦闘がおこる可能性のないエリア」に限られていた。それが今回の安保法制で、自衛隊は「いまそこで戦闘が行わ

虜となる可能性がケタ違いに高まったのだ。

通常、敵国の戦闘員は、ジュネーブ条約にのっとり



ある議員秘書のノートから

安保法制で自衛隊員は捕虜扱いにならぬ——岸田外相答弁

れていないエリア」であれば、法文上は核兵器すら運べるようになった。これにより、後方支援中の自衛隊が捕

「捕虜」として遇し、拷問などを加えてはならない。しかし日本政府は自衛隊を軍隊と認めず、「後方支援」は武力

行使でないとする。では「後方支援中に捕まった自衛隊員」はどうなるのか、というのが冒頭の問いだ。

答えは「テロリスト」。これは安倍総理自身が答弁している。日本政府がなんといおうと国際常識に照らせば後方支援は「兵たん」＝軍事行動だから、自衛隊員は「日の丸をつけて、武装して、軍事作戦に加担した民間人」なのだ。そうした人間を保護する取り決めなどない。

自衛隊をも裏切った安倍総理

これを誰よりわかっていたのが安倍総理だった。だからこそ彼は、憲法9条を変えて、自衛隊を「普通の軍隊」にしなくては海外に送り出せない、と主張して保守層の支持を得てきたのだ（こうした主張は、「沖繩の2紙をつぶせ」と言った百田氏との共著のなかにも垣間見える）。

安倍総理は、まず正面から9条改定を試みて失敗し、続いて96条を変えて「変えやすくしよう」としたが、これもかなわなかった。結局内閣法制局長官の人事をねじまげて自分のプレーンを押し込み、

閣議決定で憲法解釈を変えるという二重の禁じ手を使うしかなかった。そこまでして、アメリカに追従する道を選んだのである。

今回の安保法制の目的は、一部の輸出型大企業が武器輸出を行うさいに「日本は武器を買えというばかりで、血を流さない」という批判をかわすためではないか。その矛盾を背負わされたのが、自衛隊と聞いていい。「いままで同様の中途半端な立ち位置で」「いままで以上の危険な任務につかされ」「捕虜になっても自己責任」というわけである。

さんざん利用してきた自衛隊すら裏切り、「国民のリスクは減る」と言い放つ安倍総理。アメリカが始めた戦争により、この10年間でテロの発生件数が8倍以上になっている事実は知らないようだ。

一度は破壊された立憲主義と民主主義を取り戻すためにも、来年の参議院選挙は勝負となる。「連休をはさめば支持率なんて回復する」といわんばかりに強行採決を行った安倍政権との最後のたたかいにしたい。

違憲安保法制を問う

自衛隊が「軍隊」になった。国民の6割が反対していた安保法案が9月19日、訳の分からないまま数の多数論で可決された。それを後押しした一因は、訳の分からない中国の覇権主義にあるのは明らか。その脅威に対抗する「抑止力」論が、国論を二分。国会は民意を無視したただのサル芝居になり下がった。危機に新しい力が生まれる。今、民主政治を取り戻す萌芽に注目したい。(吉田進)



毎日新聞「緊急世論調査」によると、安保関連法制定後「評価しない」が57%、「評価する」が31%という。

かつて、60年安保反対闘争では「総評」(今は連合)と「全学連」の学生が主役。

70年は総評労組と「全共闘」の学生。今回は、連合から外れた「全労協」「全学連」、『SEALDs』(自由と民主主義のための学生緊急行動)らで一般市民の参加が目立った。

『SEALDs』のリーダー奥田愛基さん(23)は、「安保法制が閣議決定された時に団体名を決めた時は5〜6人のメンバーでした。6月末には数千人がデモに集まった」

「安倍首相は『戦後レジーム』からの脱却を掲げながら対米自立という意味で真逆の道を進んでおり、実はそれを固定化している——僕も中国の脅威が迫っていることを理解していますし、安全保障の論議は必要だと思っています。ただ個別自衛権の範囲で何がどこまで出来るかを緻密に議論していけば、その範囲内で行うことができるのが相当ある。なぜ一足飛びに集団自衛権なのか」「SEALDs」が声を上

げたことで、全国の若者が政治を真剣に考えるようになったという人もいますが、若者をバカにしています。政治に関心を持つ若者はたくさんいます」と語り、「僕の出身高は偏差値が『28』だと書かれたり、僕を『在日認定』したことから、しつこく僕の本籍地を探している人もいます。安保法制の議論とは関係ない個人攻撃は残念です」とも語る(『文藝春秋』11月号)。カネと政治に毒された一部のマスコミ。出る釘は打つこの国の方程式である。

友好は中国の覇権に忠告から

安倍首相の安保法制必要論は、中国の覇権主義に対する抑止力。その賛成派も総じて、その「抑止論」にはまっている。主に中国は陸と海のシルクロード経済圏構想「一带一路」を掲げ、南シナ海奥深く「九段線」を引き、満潮時には海没する「南沙諸島は古来2000年前は中国領だった」と訳の分からないことを理由に、そこを埋立て軍港を創った。米国は「航行の自由」を掲げ、その島22の海域内へ横須賀基地配備の

イージス艦を航行させた。沖縄の尖閣諸島も同じだ。よほどの中国かぶれは別として、世論は中国へはNO、米国へは拍手だろう。

その抑止力必要論に対し、野党は中国の覇権主義に何も言わず、与党へ対案をも出していない。そして与党、財界はこぞって金儲けの経済では中国要人と握手し、反対の手で抑止のナタを上げる。どう対処すべきか。答えは前述の奥田さんが語っているように思う。

辺野古の米軍基地建設は一体

安倍政権は、中国、北朝鮮への抑止力として、辺野古沖へ米軍の空港建設を強引に着手している。沖縄県民は、政府のアメをのまず、ムチをはねのけ、反対する。県民の志に敬意を表しつつ、本土の人々に対岸の火事とせず、県民総意の反対闘争に連帯してほしいと願う。一方、労組役員は世間から「労働貴族」とヤユされ、所属組合に遠慮して年々組織率が18%に落ち込んでいることを自省し、原点に立ち返り、恵まれない労働者に連帯し、血も涙もある労



働運動をやり、国民の支持を得てもらいたい。

安倍さんは3本の矢がお好き

彼は、安保法制の強引な可決で人気落ちを懸念し、またぞろ「1億総活躍社会」の3本の矢①希望を生み出す強い経済、GDP600兆円達成②夢をつむぐ子育て支援出生率1.8③安心をつなぐ社会保障を出した。前回の3本の矢の経済政策は的はずれで、円安による輸出産業と関連企業の株高で少数が笑い、低所得者の多数が泣くことに。政治の大義は、貧富の格差是正にあることを肝に銘じるべきだ。

次の3本の矢は、戦中の「1億総決起」、「欲しがりません勝つまでは」兵隊づくりの「産めよ殖やせよ」の号令に聞こえる。こゝろで「安倍さんご退場」といきたいものだ。

今回の日中韓首脳会議の行方に注目したい。

皆さん160億円ボーナスの ソフトバンク携帯から 乗り替えよう

福岡市 損不義

小生は孫正義氏を各団体に寄付し、反原発などの社会問題にも発言するグローバルな経営者として敬意を払ってきた。しかしグーグルの副社長ニケシユ・アローラ氏（インド生まれの米国籍・年収46・4億）を後継者副社長として引き抜き、15年3月までの半年間の報酬を165億円与えたと聞いてビックリ仰天あきれ果てた。国民を無視した報酬は利用者などの猛反発で買替えが激増しさすがの孫さんもギブアップするだろうと見通した。しかし、現実には小生の見通しは外れマスコミなどでその巨額に驚くものの批判は殆どなく、ましてや不買運動は微塵も起こらなかった。さすがは孫氏、国民の権利意

識、平等観や自社社員の大人しさを知り尽くしてのこの暴挙だ。孫氏はマスコミ界にもニラミを利かし批判を封じてしまい、圧力をかけ自由を奪ってしまったのだろう。

人類の進歩と共に自由・人権・平等が叫ばれてきたはずが、社会主義の衰退と共に平等が捨てられてしまった。

小生はマンション管理者の立場で屋上に取付けてあるソフトバンクのアンテナ基地の借用料の値上げを、ソフトバンクはもうけ過ぎとの経済事情の変化を盾にバンクに申し入れた。だが、何故か交渉は決裂した。東京の知人の話では、借用料では上げられな

いが、電気代として年間5万円上げるのを同意させたそう。バンク利用の皆さん、ショップに160億円も払えるなら使用料を下げると申し入れたら？ 全利用者が1回だけでも抗議したら必ず孫氏は国民の怒りを感じて改めるだろう。孫氏はまだ涼しい顔をしているよ。

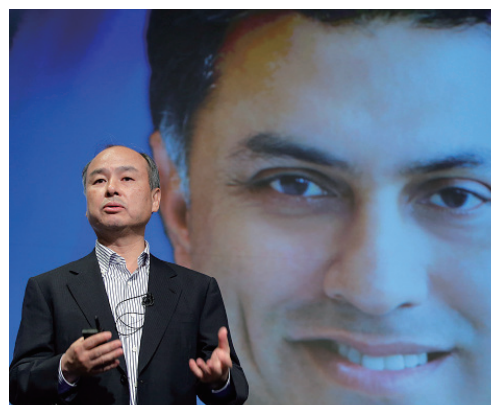
【ソフトバンク 副社長

160億円】でネット検索した。読みきれない数の批判的投稿があったが、孫氏の悪行を正すまでにはなっていない。

ネットでの意見を拾い出すと①公共の電波を私物化するソフトバンクは免許を取り上げる②2%の人口が世界の富の半分を持つ世の中だ③それでもバンクを利用し孫を崇拜す

る日本人・大衆は馬鹿だよ④月16万で働いている社員はかわいそう⑤俺なら160億円もらって半年で辞める⑥お前から高い使用料取って結果はこれですよ⑦孫も馬鹿じゃなし160億円払っても充分元が取れると計算した【1人が160億円も稼げる社会は不当だ】⑧社内のモチベーションをどう練るのか？⑨こんな世の中に誰がした——我々国民がした⑩ショップの店員よくこんなベテン師の手先になれるな。等々。孫氏は目を通したことがあるのか？

金持ちを富裕層とごまかし、不平等を格差とそらしたり、搾取を能力と言ひ換え、権力側は発信力と権力があるから、言いくるめられて



孫氏はアローラ氏を自らの後継者として指名しました (PHOTO) gettyimages

しまう。

しかし、半年で165億円なら年収330万の人の1万人分の給料だ。いかなる理由でも許せない、許すべきでない。不平等は正を唱える政党なら思い切つて糾弾し、連合労組は孫正義氏に抗議を申し入れたらどうか。賛否もあろうが問題提起も必要だ。国家間の不平等が拡大し、国民間の所得差が増大し、億単位の所得を得た人は能力だと賛辞される。同じ人間でどうしてこんなに不平等が堂々とまかり通るのか、平均所得の5分の1しか得られない人は怒るべきだ。

そして資本主義は根源的に不平等をもたらす制度だと再確認しよう。

温暖化ガス削減を 口実にした 原発再稼働の欺瞞性

新潟県三条市 外山産業グループ社長 外山 晴一

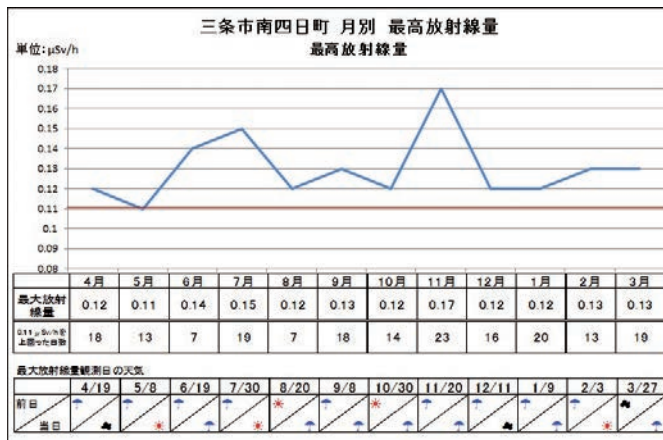


国連は今年度末までにボストン議定書といわれる地球温暖化対策の新たな国際枠組みを決めます。日本政府は7月17日に2030年に温暖化ガスの排出量を13年比26%削減する案を国連に提出し、この削減目標を達成するための電源構成（ベストミックス）を政府は正式に決めました。その内容は原子力を全発電量の20～22%、再生可能エネルギーを22～24%とするという内容です。

政府は温暖化ガスを削減するためには原発稼働が必要だとの立場です。その前提となつているのは、福島原発事故を検証して、厳しい新基準

を作り、安全対策を十分に講じたから、これから再稼働する原発は安心安全でかつ低コストだ」というものです。この論拠により原発輸出にも積極的です。福島原発事故を未だ収束出来ない中で世界に対して全く恥かしいかぎりです。

我社の放射能測定機では、晴天のときは国際基準ICRPの安全基準である時間当たり0.114マイクロシーベルト以下ですが、雨の日はこれを超えます。福島原発から依然放射能が漏れており、雨と共に地上に落下していると



思われます。ちなみに欧州基準はICRPの10分の1ですが、日本政府は逆に事故後、ICRPの20倍に基準を緩めています。

また日本は自然災害大国であり、地震の他にも火山活動の活発化が列島に散見する現実もあります。こうした状況下での九州電力川内原発の再稼働はまさに狂気の沙汰です。政府や電力会社のいうように原発があらゆるリスクを考えたも安全安心で低コストというなら、新潟県に住む私としては東京電力の柏崎・刈羽原

発を電力消費地の東京湾に移設して再稼働すべきとさえ思います。新潟県は東北電力のエリアですので、この原発で作られる電力は新潟県には全く供給されずすべて東京に送られます。長い送電の過程で多量の電気が熱となり失われてしまいます。また、多くの送電鉄塔の維持管理費とその倒壊の危険性を考えれば、発電所は消費地に作るのが一番低コストで安全でしょう。坂出市で1998年に起きた四国電力の送電鉄塔の倒壊事故はテロ事件との説もありました。送電鉄塔が倒壊し、発電した電力をアウトプットできなくなった原発は爆発の危険性もあります。

長距離送電の危険を冒し、コストをかけて東京まで電気を送るのはなぜでしょうか？東京湾に移設再稼働しようとの議論すら起きないのは原発が安全ではないからです。これは新潟県は福島県同様、東京電力の植民地であるといっても過言ではありません。

温暖化ガス削減を口実にした原発再稼働は電力会社の利益だけを考えた無責任で欺瞞に満ちた恐ろしいことです。

時間を遡行できないならばせめてこの脚で /

岩名雅記の Cm ジャニー 19

生きているモノたち

いわな まさき / 舞踏家、映画監督 (フランス / 南ノルマンディ在住)

8月28日、信じられないような様々な困難にもかかわらず、これまた信じられないような正確さで僕らのパリ / ノルマンディ撮影5週間が無事終了した。それというのも連日強引なほど「前進」するチームカメラマンのTさんの腕力、病気を押しして日々撮影計画を緻密に立てた助監督Iさんの努力に負うところが多い。

よて監督である僕はもとも舞踏家である。舞踏家にとって「からだ」は踊るための素材、楽器であるだけでなく「モノ」でもある。つまり僕にとってからだは水

やガラスや鉄片と同じなモノなのである。この信じ方で僕は40年間踊ってきたし、今回含め4本の長編劇映画でも「からだ」モノ」を主張 / 主調してきた。

この観点からフランス撮影5週間を振り返ってみたい。例えばある日のこと、助監督が「午前の撮影はこれで終わりです」と言ったので、僕はすぐさま午後の撮影がある2キロ先の友人の農場へ撮影に使う一輪車2台と大きなパネルを運んでもらうべく、お隣さんの小型トラックに同乗した。

しかし実際は午前の撮影は僕の不在の間に「モノ」の撮影がカメラマンと助監督だけで行なわれていた。善意に解釈すれば「モノ」の撮影に監督の手を煩わせることはなからう」というのが助監督



撮影: Marasco Ivan

の考えだったのかも知れない。しかしそれを後で知った僕はいささか憤慨した。僕にとってモノの撮影こそ最も大切なのだ。もう少し言えば俳優さん達の台詞やしぐさを撮ることよりも僕にとってモノの撮影は、より大切なのだ。

そして今日9月7日、初めてそのラッシュユ(未編集フィルム)を観た。7カットくらいのモノが写っている。けれど使えるものは殆ど皆無なのである。これはカメラマンや助監督への不満というより僕の映画観が彼らに理解されていなかった、すなわちコミュニケーション不足の結果なのである。

では何が問題だったのか? 僕の言葉で言えば、そこに写っていたのは「概念としてのモノ」であり、モノが持っている「実質」が写っていないかったのだ。これは「これはこういうモノですよ」と言葉で説明できる、つまり社会のなかで「共通の記号」として誰でもが納得できるシロモノ

のことである。一方、「実質としてのモノ」とは説明 / 名状しがたく、説明する端からそれが破綻 / 崩壊していくような「生きているそのモノ自体」のことである。

卑 近な例をあげていえば毎朝必ずと言って良いほど最寄り駅で会う人がいるとする。とりわけて知合いというわけでもないが毎日会う



撮影: Marasco Ivan

うちにいつしかお辞儀をするようになった。ただ知合いではないからそれ以上の進展はない。かくして何年経っても「お辞儀だけの仲」なのである。僕にとって「概念としてのモノ」とはこの「カタチだけのお辞儀」みたいなものだ。では「本質としてのモノ」とは何だろうか? 同じ例に習って言えばいつしかお辞儀だけでなく、何処か別なとこ

ろで会ってじっくり話をしてみる、そのうち昨日会ったその人と今朝会ったその同じ人が内面において微妙に違うということがわかれるところまでその人を知ることである。

撮 影技法に関して言えば「距離 // 空間」の問題が先ずあるだろう。そのためにはレンズの種類も変えなければならぬかも知れない。あるいは「時間」も大きな要素になるだろう。日本でも評判になった「ニーチェの馬」を作ったハンガリーの監督・タール・ペラの中期の作品ではモノを信じられないような時間をかけて撮ることで「モノの実質」に迫ったのである。無論、アングルやフレームの切りとり方については言うに及ばない。

僕 踊っていても考えていることはいつも同じだ。「説明」ではなく「ありさま」が欲しい。固定しているものより動いているものが欲しい。それを実現する為には特製の虫眼鏡が必要になる。それがあればからだもモノも同じ生き物として脈々とうごめいていくことがよくわかる。

洋画家（独立美術協会会員） 林敬二の世界

編集部

この夏高島屋で十果会なる展覧会を鑑賞する機会を持った。その会員の林洋画家を縁あって訪ねることになったので、深く考えずに、林先生の美の世界を『LIFE CROSSING』で紹介させてもらうことになった。



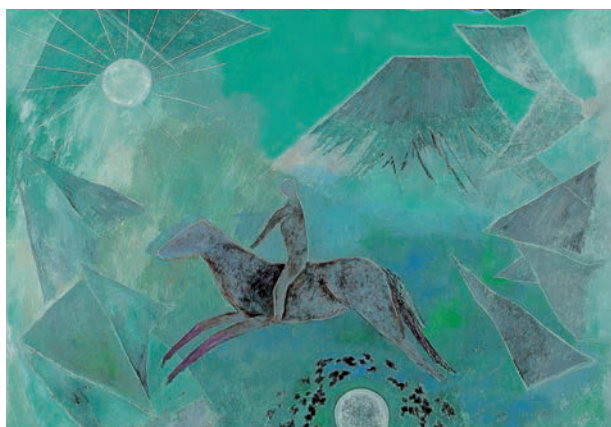
「晩景」

林先生に幼い頃から自らの画才を感じていたか？とお聞きすると、絵に関心を持ったのは高校時代からで東京芸大に進んだ時はまだ『これで飯を喰える』とは思えなかったとか。学生時代に画商が初めて自分の絵に値段を付けてくれたことが大変嬉しかったそうだ。31歳になってイタリア政府奨学留学生として3年間渡伊したのが大きな転機で、生涯描くことを生業とする決心ができたそうだ。何故抽象画なのですか？見えた通りに描くのならカラー写真で良い、自分はこのように感じたかと表現したいのだ。画風は年代に応じて変って行く。表現したい色も変遷する。

2008年に出された林敬二画集をみると10年毎にタイトルと解説があるが、何度読んでも我々にはよく分からない表現が続いていた。しかし、画家の関心の対象が変わっていったのが見て取れる。色彩や線描がクッキリの時期、人物の顔が幻想的にマスクが現される期間、空間に静物や馬が点在する年代、そして近年は分厚い色が豊かに配されている。イメージを展開させて自分の世界をどんどん作って行くと洋画家は語ってくれた。



自分自身に命令して、命題を与えていったので使う色も変化。若い時の新鮮な感覚から成熟期には次第に品格が滲み出るようになった。絵筆を執る時は自分の内側を覗いていくような思いで描くと、洋画家は印象と感覚を強調された。自分の画をどのように観るかは鑑賞者の自由であって、価値を認め、その上で値段を付けて買ってくれる方がいれば尚ありがたいと言うことでしよう。やはり画家にもスランプがあって横にいる夫人にもよく分かるそうで、調子の良いときはご機嫌で好きな音楽を流しながらアトリエに閉じこもるそうだ。



「宙・凱風」

一つの絵を描き始めたから最後までそれに集中するのをお聞きすると、気が向いたら

幾つもの絵にかかるそうだ。途中で気に入らなくてやめることもある、キャンパスが勿体ないのでその上に描くこともあるが、ある程度の歳になるとイメージどおりに描けるから止めることは無くなったそうだ。自分が特に気に入った画は手元に置いておく——ような

の良いときはご機嫌で好きな音楽を流しながらアトリエに閉じこもるそうだ。一つの絵を描き始めたから最後までそれに集中するのをお聞きすると、気が向いたら描かないことはないですよとニヤリ。後で見ると画集のV章の下に2002年自画像とあってデッサンの鉛筆を手に帽子を被ったの全姿像があった。林敬二洋画家の美の世界、いや感覚の世界は次第に私にも感じられるようになってきた気がする。

絵のうまい下手はあるか？との問いに、悪達者に過ぎると軽薄になって下品になるな、少し素朴な方が美を発見できるものだと思います。それにしても自分が好きで描いて表現することが仕事になっておまけに生活の糧と名声を得られるのは羨ましい限りだ。

尤も、多くの芸術家、アーティストが夢破れて絶望し一握りの才能と運の良い者が生涯夢を追いつけられるのだろう。我々凡人は現業にはげむしかあるまい。

家庭で できる健康 味アミノ酸 オーミロカズミ

カレー粉を使った料理を私たちはひとまごめにかレーと呼んでいますが、本場の国々では調理法により名称が細かく分かれています。たぷりの玉ネギで煮込んだ肉魚は「ジャゼ」、汁気のない炒めものは「バジ」という具合に。手早く作れてあっさりしたバジは忙しい主婦の強い味方！しかもウコンを主とするカレー粉には薬効があり、健康にも嬉しい助っ人なのです。

お4回 チングリ・マスのバジ（バングラデシュ風エビ入り野菜炒め）

- 材料（2〜3人前）
- エビ中6尾くらい
- オクラ1ネット
- ニンニク1/2片
- ショウガ同量
- コンソメ1個
- カレー粉適宜



ウコンは殺菌・整腸作用があり、肝臓の働きを助ける。チウジは防癌性に優れ、虫除けにも。カルタモンは油気をとり除いて消化を助ける。フェネルは消化を助け口臭を消す。フェネグリークは腸内ガスを予防する。
カレー料理とは、即ち薬膳料理なのです。

へ〜ん

■作り方

- ①エビの背ワタを取り、30分くらい酒に浸しておく。
- ②オクラを塩し、しんなりしたら水洗いする。
- ③フライパンに油大さじ1を熱し、みじん切りにしたニンニクとショウガを炒める。
- ④エビとオクラを1cmくらいに切って③に加え、コンソメとカレー粉を加え、落とし火をして10分くらい煮る。
- ⑤塩で味付けし、水分がなくなるとまでターナーでまぜながら煮ることで完成。



おおっ！
オクラが糸引いてる〜

川と海に囲まれた亜熱帯モンスーンの国バングラデシュは、魚料理が豊富です。しかしイスラム教の戒律によりタコ、ウナギ、貝類など、(おまの)に食べることができません。
ユダヤ教でも魚介類はウロコのあるものしか食べちゃいけない(カス)に決まっています。……



バングラデシュでは魚のことをマスと呼びます。レイマス(鯉)、ルプチャダマス(マナガソ)、シトウキマス(ジャコ)という具合に、魚の名前には必ずマスが付きます。
エビはチングリマスといいますが、魚でもないエビをマスと呼ぶのは、人々がエビを食べたいがために無理やり魚呼ばわりしてしまったのではないかと、私は思っています。



何を言ってるんだい、エビは魚の仲間だし、堂々

チングリマスのバジは、どんな野菜と合わせてもおいしく上がります。オクラに変えてホウレン草、ツルムラサキ、菜の花など、季節の野菜で楽しんでください。また、スープをたっぷりめにして、冬瓜やカボチャを煮こんでもおいしいですよ。特にカボチャは煮くずされたところが甘くて、トロ味も出て最高です。
国が変われば私たちが思いつきもしないような食べ方があって、勉強になりますね！
日本人って魚をナマで食べません？
やっだの

上海在住日本人見聞録 (5)

「歴史好き」「歴女」……と聞くと、イメージするのは「日本史オタク」、それも特に戦国時代や幕末など、まさに「歴史が動いた」感じがする時代に熱中する人が多いように思う。かという私は全くの日本史音痴。大河ドラマは1度も見たことがないし、世界遺産のお城やお寺もそんなに興味はない。しかしながら、10数年前から中国に興味を持ち始め、自称上海好きとして、駐在員妻としてはあるが上海に住むようになってからは、中国の近現代史には俄然詳しくなってくる。すると、19世紀後半の中国史にはちよくちよく日本人が登場してくることを知る。今回はたまたま「出会った」、しかしながら自分にとっては運命的なものを感じた「中国史の中の日本人」を紹介してみようと思う。

上海中心部の旧フランス租界エリアは、秋になるとプラタナスの並木も黄色に色づき、絶好のお散歩コースとな

る。先日、散歩のついでにまだ通ったことのない道を歩いてみよう、足を踏み入れたのが「紹興路」という500m足らずの短い道。古くは出版社が建ち並ぶエリアで、今はその建物が市の重要建築に

のご近所さんによる公園。変わった形の石灰石（太湖石）が並び中国南部の伝統的な庭園を思わせる園内では、お年寄りが談笑したり、カードゲームをしたりと、庶民の憩いの場となっている。もちろん観光化されていない、ガイドブックにも載っていない公園の中央に佇んでいたのが和服を来た日本人の像だったのである。



上海の小さな公園に佇む日本人の銅像

駐在員の妻 吉松景子

指定、保護されており、昔ながらの面影を残した「老上海」を感じることでできる小道だ。その一角にある小さな公園「紹興公園」に入ってみた。まさにご近所さんのため

その名を「梅沢庄吉」……。日本史音痴の私にとってはもちろん「はて？知らぬ御名前だ……」と思いつつも、歴史に少々詳しい夫も知らぬ横様。そして銅像の横にある石碑の説明で初めて彼を知ることになった。彼は辛亥革命の指導者・孫文を支えた長崎出身の実業家だったのである。

1890年代に香港で孫文と出会い、彼の革命に援助を続けた梅沢は、日本に帰った後も長く彼との交流を続ける。1913年には、日本に亡命中の孫文と、宋慶齡の結

婚式を梅沢の自邸で主催したというのだから、2人は相当熱い信頼関係で結ばれていたであろう。

この銅像は2011年に長崎から上海に寄贈されたものらしいが、確かに紹興公園から1kmほどあると孫文の故居がある。香港で出会った2人は、ここ上海でもその友情を深めたのだろうか……。知識を深める資料が乏しく、彼への関心は深まるばかり……。

さらに、もう一つ驚きだったことがある。梅沢は明治時代に、フランスの映画会社「Pathé社」から映画プリントを入手して、東京で映画の興行を始め、その後映画製作もおこなっている。「M・パテー商会」という組織名で出たこの会社は、日本最古の映画会社の1つでもあり、なんと、後の日活の前身になる会社だった。なぜこんなに驚くかというと、個人的な話だが、私の前職が映画会社だったため、Pathéも日活も自分にとっては非常に身近なワードだったからだ。日本人もあまり知られていない歴史上の人物が、上海の小さな公園に銅像として佇み、そして

彼の歴史が今も息づいていることを実感した瞬間だった。

清朝の中心は北京。しかしながら、清朝末期からの動乱は決して中国の北部だけで起こっていたのではない。19世紀、列強の手によって（日本も含め）、彼らの租借地としてまるでツギハギの布のように分割されてしまった上海は、その狭いエリアの中で、中国の今につながる政治や文化の道が開いた場所でもある。そのドラマチックな時代に、中国の中にいた日本人も梅沢庄吉だけではない。例えば魯迅と親交の深かった内山完造も中国史を語る上でなくてはならない日本人だ。

中国の近代史への興味が増大すると、これまで避けて通ってきたことが、避けられなくなってきた。そう、その時代の日本史に全く疎いことだ。上海の歴史も、その時代の日本人史を知っているからこそ、何倍も面白くなるの……。なんで学生時代、ちゃんと日本史勉強しなかったのだろう……と無駄に後悔の念が押し寄せてくる秋になってしまった。

京都夏の風物詩 大文字の送り火

東京 三田 栄考

京都を彩る風物詩で古都を囲む山にクッキリと火を灯すのも風情があつて良いものである。送り火見物にでかけた。大、妙法、舟形、鳥居形、左大文字と五山があるが、一番有名な東山如意ヶ岳を鑑賞するにはどこが良いか元京都人に相談した。「加茂川の上流で二俣に分かれる出

町柳の河原」、さらにもう一人聞くと「車は渋滞だし駐車もできない」との意見。京阪電車の五条駅前の駐車場で車を預けたのが3時半、清水寺を散策して戻ってきて電車に乗ったのが5時過ぎ。三条を過ぎて出町柳で降りて地上に出るともう目の前は加茂川が見える。8時の点火までは2時間半以上あるのに人もだいたい集まっていた。



二俣川の右手（東側）が高野川と初めて知る。川を渡ると鴨川公園の先端部に入る。そのまま三角州の先まで行くと左の（西側）鴨川の浅瀬を渡る飛びコンクリ石が渡されていて、幾つかは亀の甲羅状石で風情を感じさせられる。こちら側より観やすさかろうと人は向こう側に渡る。辺り一面は殆ど芝生である

が、先客の多くは用意良くブルーシート等を敷く。まだ、少し余裕で4人分の範囲は確保できた。少し早くきすぎたかなとも思ったが、夕食に行くわけに行かず、連れの三人の中国人を残して食糧品と飲み物を買に行く。お握りとコーラを飲み終わってもまだ明るい6時半だ。少しづつ人々が増えてくる。小雨が降ってきた、周りの人達は用意周到で傘を指す者、雨除けを被る者。我々は近くのコンビニに透明傘を買いに走る。8時の点火時に強風では困るな等と話していたら、1人で来ていた隣の男性が「去年は増水でこの河原は川の中。誰もここで見物できなかった」と話してくれた。「あの山の中腹に大という文字が薪で焼かれるだけでそんなに凄いものではないが……。京都の風物詩だからね」と薄暮の東山を私が指差したのが7時頃。幸い、その頃から雨は止んで皆はゆっくり待つのみだ。もう辺りは人で芝生は埋まってきた。周りには外国語が飛び交い、西洋人は声が大きく楽しそうだ。早めに点火をしないだろうな



と思いつつ待っていると、ようやくぽつと火が付いたようだ、そして煙が大の字の周りに煙ったように見えると、やがてクッキリ大の字形に火が燃え出した。華やかさも、賑やかさも無いが暗闇に浮き上がる火は誰もが認める古都のシンボルだ。15分して少しづつ文字が欠けだしたので我々は今出川通りを帰路に着くと、橋から左手の松ヶ崎東山に法の送り火が見えた。一緒に来た三人は、この日案内した観光地でも大文字焼

きが一番印象的だったのとこと。「山に火で大きな大」などの文字を作って、初めて見て、特別な感動が出てきました。それにこんな大勢な人が見に来て、この行事が日本で大人気だと感じた」と帰りの京阪電車で話してくれた。お盆で迎えた祖先の霊を送る火の始まりは定かでないが、江戸時代には書物に出ており、昭和19、20年は戦争で中止になっている。和やかな五山の火がいつまでも平和裏に続けられるように祈りたい。

豪州の先のニュージージーランド 雑多な人種の都市オークランド

大阪府中央区 馬場 正雄

どなたでも投稿受け付けます。ただし選考いたします。

面積でも、人口でも、ニュージージーランド（新西蘭以下新国とする）は豪州の弟分である。移民を受け入れている一方、豪州へも移住する。兄貴の方は16世紀に移住を始め、先住民をほぼ滅ぼした。弟分は18世紀に乗り込んで来て、マオリ先住族と土地の購入等を協議して、比較的融和な裡に現在を迎え、マオリ語は公式言語に復活し、人口も14%を数えるから無視できない存在だ。

まるでニューヨークのよう雑多な人種を街中に見かける。中国人が一番多いが、インド人、中近東人や黒人も良く見かける。日本からの留学生も多く、日本料理店で英会話の練習がてらグループ交歓している若者を見かけた。新国への留学作業無料での日



港に間近な都心部・中央がスカイタワー

本語の広告が、ガラスに貼られている。しかし、ここに難題がある。隣国以上に物価が高い。コーラが三百円、タクシーも3、4割高い。旅行社に頼んだホテルも高かったのもした。朝食を食べたら追加2200円請求されたのには参ったな。

194mのスカイタワー展望台は斜めに見下ろせて眺望が良い。真下の高層ビル、近くの港、向こうに半島や島、反対側には郊外の住宅街が広がっていた。ベンチに座って日没の夕景を楽しめた。地上右手のスカイホテルのエスカレーターに導かれて上がるとカジノがあった。再度、土曜の夕食後にも覗いてみたが、かなりの賑わいで何故だか客は西洋人よりアジア系が多い。ルーレットなんぞは、客が個別のコンピュータ席に座って胴元相手に淡々と賭けていた。隣の白人が50ドル紙幣10枚（45000円）を出すと、札をさっと並べてさりげなく台下に落とすし込む。まあ上品に手際よくやるのがプロだ。

人間の数より羊の数が多しと言われるが、英国がEUに加盟して輸出経済が大きく様変わりして、市場が近い日本やアジアに重きを置きだした。一時、一千万頭いた羊が半分近く減って、搾乳牛、食用牛が逆転したとか。T P P

交渉でチーズの関税問題で延期になったが新国には死活問題だ。新国では牧歌的霧囲気を味わえないと云う訳で、1日かけて羊牧場、土蚕の神秘的な鍾乳洞、マオリ踊りの見物に出かけた。4頭の羊を囲いに追込む羊犬のシヨールでは追われる羊君らは困ったワンちゃんだなあ」と習性で逃げ、数m離れて追っかけ回す犬。ウン、彼の目は真剣そのもので、お前ゆうこと聞けよ」と睨み付けていた。帰路バスの車窓外に見える牧場の牛、羊、馬を集団単位で大雑把に数え続けたら、それこそ1万頭越えたから納得し満足した。

派手な車体で降り降り自由なホップオン・オフのバス、割高な四千円に乗る。タワーから遠望した緑の中の立派なビザンチン風の柱のミュージアムに入る。一階はほぼマオリ文化、二階は開拓の歴史、三階は戦争の間で、数々の軍旗に飾られて

る広間に、《フリーダムの為に命を捧げた五千の英雄の名前》が刻まれてあって、參觀者が指差していたのは身内の名前か。戦死者は戦争の最大の被害者、ホントに喜んで死んだのか、自由の闘いと思っていたのか。驚いたことに同国の昔の戦闘機が展示されている反対の部屋に《ゼロファイター（零戦）》があった。この機はどのようなして新国に渡ったのか？ヒトラー初め英、米、日、伊、露、責任者の巨大写真に、彼等が国民を戦争に駆り立てるアジ演説語録が示されていた。建物を出て振り返ると「ミュージアム&戦争記念館」と、二階の壁に大きく彫り込まれていた。どの案内書にも戦争記念館とはなかったが。日本では特攻も平和記念館と名前を変えて展示されている。戦死した人を悼むなら武器無き社会をめざすべきではないか？永年労働党政権だったクラーク元首相が国連次期総長に女性候補として名乗りを挙げ、東欧の女性候補と争っているとか、もし当選したら平和の為に貢献を期待したい。

はやくお出でよ

水戸のご隠居（斉昭様）

天下漫遊の光圀黄門様は講談・

デッチ上げの方。

東京 原野 通有



結城派に分裂して彼等に翻弄されて藩の体裁を失い水戸藩は維新に活躍できなかった。他方七男慶喜は英明の誉れ高く一橋家に養子に行った後も本家の14代候補に推されるが負けて、結果的に將軍家定の若死で15代になるが大政奉還後は隠居。

てくれるのは水戸の九代藩主で斉昭の他にはいない——と
いうご隠居待望論だ。水戸藩

主は誰でも中納言だから隠居すれば皆黄門と称されるので光圀も斉昭も黄門様だ。

現在の人気と全く異なり光圀は当時無名の地方区、斉昭は全国区人気者だった。烈公と呼ば

るだけあって性格も激しかった。全

領検地や日本最大規模5万4千坪の弘道館藩校、藩士の土



水戸市仙波公園斉昭と息子慶喜

タイトルの「はやくお出でよ水戸のご隠居」はペリー来航時大騒ぎの水戸の町に流れた落首（世相風刺）で、この騒ぎと不安をなんとか解決し

着、などの藩政改革までは良かったが攘夷のための大規模軍事演習や仏像や梵鐘を潰して大砲製造に使うなどの仏教弾圧（明治の廃仏毀釈に繋

る）の行き過ぎを老中阿倍正弘らに咎められて隠居謹慎させられたのが44歳。政界の巨星斉昭は大人しくしていないから人気があった。

井伊大老が開国調印したのを攘夷論者斉昭は登城日でないのに、尾張藩主慶恕、越前の松平春嶽らと直談判に及んだ為に再び駒込屋敷に謹慎、59歳。慶喜の大河ドラマにこの斉昭の登城姿が出てきた。

水戸の隠居殺すが井伊の落首はそのもようを指す。井伊大老が暗殺後五ヶ月で息子一橋慶喜が將軍になるのも知らず、世を去った。

家康の11男頼房が水戸藩祖で、父は7代目の治紀で斉昭は三男で寛政12年1800年生まれ。藩政改革派の藤田東湖（水戸学の大家、安政の

大地震で死亡）や武田耕雲斎（後天狗党首領、中仙道を武力で上京しようとして越前敦賀で斬首）等の尽力で藩主になる。次兄は高松藩、弟も

宍戸藩の養子になっていたから、長兄斉脩がで亡くなったからラッキーにも部屋住みの29歳の斉昭にお鉢が回ってきた。この男11代將軍家斉の一字斉をもらっただけあって負

けないくらい女の子好きで子供は正式に分かっているだけで37人、子供を生んだ側室は9人。長男藩主慶篤の嫁線姫にも手を出したために気の毒に

自害したとか。常軌を逸した女癖の悪さに大奥で嫌われたので幕政を動かさきれなかった。息子10代目慶篤は順公と言われるだけに父の傀儡で、父亡き後は改革派、保守派、

結城派に分裂して彼等に翻弄されて藩の体裁を失い水戸藩は維新に活躍できなかった。他方七男慶喜は英明の誉れ高く一橋家に養子に行った後も本家の14代候補に推されるが負けて、結果的に將軍家定の若死で15代になるが大政奉還後は隠居。

江戸全期をみても御三家の藩主では斉昭の右に出る殿様はいないと庶民も分かっていたのだろう。水戸藩は人物も多く現れたが哀しいかな、政権の中心にいたこともなく華々しい業績もないから現代人には余り知られていない。斉昭は藩主として彼なりの改革を行っている。35万石の大名家だが実質は貧乏藩で10万石の実力かということ。全領土の検地を行い、実態経済を把握して納税の不公平感をなくした。水戸藩は例外的に参勤交代を免じられており定府制といって殿も家臣も江戸詰めが多かったのを国許に帰すことよって経費を削減した。幕府には大鑑の建造を何度も提案し、蝦夷地を下し置かれて水戸藩の隠居グループが北方の海防に当たりたいと建築している。

私が愛した街 15回

大垣
—芭蕉が心を寄せた街—

アメリカの南北戦争は、アメリカの歴史の分岐点となり、重い史実となつて、人々の心の中に刻み込まれている。日本では東西の戦いだつたが、東西戦争とは呼ばれていない。源平の戦いでは、源氏が平家を滅ぼし、鎌倉に幕府を開いた。天下分け目と云われた関ヶ原では、家康が三成を破り、江戸に幕府を開い

た。維新では、尊王攘夷派が佐幕派を破り、江戸を東京に名前を変えた。大垣は西美濃の要衝で、天下一別け目の1600年の関ヶ原の戦いで、三成が本陣を敷いた街である。戦いには「不思議な勝利」はあるが、「不思議な敗戦」はないと云われている。真田親子が計算通り、秀忠の進軍を阻んだが、岐阜城が呆気なく落城し、西軍が揃うより早く、大垣と目と鼻の先にある美濃赤坂への、家康の進軍を許した。三成の目論みの狂いが、敗戦に繋がったと云われている。島左近の急襲で、杭瀬川の初戦に勝ちましたものの、7500名近い兵士を大垣城の守備に付かせたまま関ヶ原

に誘き寄せられ、小早川等の裏切りによって敗れた。家康にとつて、関ヶ原は、不思議な勝利だったのだろうか。関ヶ原での敗戦後、健気にも8日間、大垣城死守の戦いが続いたが、落城は時間の問題で、籠城中、盃舟で水門川を逃れる山田去暦親子の『おあむ物語』に、歴史の悲惨さが記されている。大垣には関ヶ原の悲しみの残滓はないようだ。寧ろ、戸田左門氏鉄が1635年に入府し、235年間治めた戸田家の治山治水の施策が、人々の心の中に刻み込まれているようだ。大垣は、西美濃の文化の要衝ともなり、早矢仕有的が医学を学び、原三溪は漢文や経世史を学んだ。

大垣の街は清潔で美しい。人通りは少ないが、水門川が街中を流れ、「水の都」を人々は誇りとし、街の至る処に水が湧き出る。水の街をこよなく愛した俳人がいた。松尾芭蕉だ。芭蕉は、深川の庵を仕舞い、命を懸けて、奥の細道に出掛けた。千住から日光路、東北路、北陸路を経て、大垣に辿り着く。名句が幾つも吟じられたが、大垣の水門川の河岸に、芭蕉の『奥の細道』の22句の石碑が並んでいる。以下の句は、『奥の細道』で、春の千住で吟じ、大垣の秋に吟じた句だ。「行春や鳥啼魚の目は泪」、「蛤のふたみに別行秋そ」。芭蕉は、2歳若い1646年生まれの船問屋谷木因と交流を深

大垣 (2015年8月)



大垣城



芭蕉桑名への出立の地

守屋多々志美術館パンフレット
(プラームスと戸田伯爵極子夫人)

め、1684年、1688年に大垣を訪問し、1689年の『奥の細道』の結びの地に大垣を選んだ。そして2年後の1691年にも4度目の大垣再訪を果たした。芭蕉が心を寄せたのは、三成の僂さだったのか、それとも、大垣人の心の優しさや美しい水の豊かさだったのか。

街中に守屋多々志美術館があり、日本画家の大家の絵が、旅人を招き入れる。西洋の宗教画では、キリストの生誕がしばしば描かれるが、此処では、聖徳太子誕生の絵が人目を引く。幼年期に、水門川の桑名への芭蕉出立の地に遊んだ多々志だが、芭蕉への思い入れが滲み出る絵も並ぶ。『プラームスと戸田伯爵極子夫人』も、大垣に因んだ大作だ。紫のドレスに包まれた夫人が奏でる琴の音に、聞き入るプラームスが印象的だ。街の静けさの中に今を忘れ、歴史の流れに身を委ねる事を許してくれる人々の奥床しさが、大垣の街が醸し出す深い魅力のようだ。



老々介護の日々 認知症の母と暮らす

三枝のせい

「助けてエエ——殺されるウ——」深夜、静寂に包まれた集合住宅の廊下で母の切迫した声が響き渡った。向いのマンションの窓に一齐に灯りがともり、住人たちが声の発生源を探している気配がする。ああ、ついにここまで来たか。普段は穏やかな母だが、今日は気分不安定、ささいなことでも怒りをあらわにしていた。一日中、私のそばに来ては「もう帰る」を連発する。仕事を中断させられるたびに、私の心は余裕がなくなり怒りっぽくなってくる。一体どこへ帰るの。「宝塚にうちはあるのもう帰られへんの。お母さんね、ご飯が作れない、買い物もできない、洗濯、掃除もできないから、私のいるところがお母さんの帰る場所」と何度も諭すのだが、聞く耳持たず。そして自分の前に立ちはだかる私という壁を突破すべくこの事態を引き起こしたのだ。

母はどこへ帰ろうとしているのか。子ども時代を過ごした大連か、西宮か宝塚か、あるいは子ども時代の自分自身か。どうやら大連のようだ。

父母に慈しまれて育った子ども時代への哀惜や帰郷願望もその中に含まれているのだろう。認知症の人には、逆らわずひたすらうんうんと聞いてあげなさいとよく言われる。しかしこちらもし身の人間。怒りの感情がふつふつと噴き出してきて、ついには同じ土俵に上ってしまう。認知症という病気のなせる業と知りつつ、怒りを爆発させてしまう未熟な私だ。

母はよく「私、もう何も分からへんねん」と諦念を込めていう。さぞかし不安なことだろうが、知恵を働かせているのがおもしろい。ショートステイも利用し、デイサービスにも通うが、「周りの人にも分からないことを気取られたくないから、分かっているようにお追従笑いしてるねん。まわりの人がやるのと同じようにしてるねん」と言っていた。時には自分の年や私や妹のことも忘れていた。「あんたは私より年が上やと思ってた、こわい人やなと思ってた」といったのはびっくり。私が怒りっぽくなっていることへの、警鐘の言葉か。

母91歳、長女である私67

歳。老々介護を自らが生きることになるとは想像だにできなかった。世間の多くの人が介護の途上で苦労されていることだろう。

最近、母には老人ホームに入ってもらおうかと考え始めている。私はしなければならぬことがたくさんあって、進行する認知症の母の世話をしながらこなしていくことがだんだん難しくなってきた。時間がこま切れにしか使えず、まとまったことができない現実におち当たっている。こちらの精神も疲弊し、焦りと怒りで一層追いつめられている。かくなる上は、どこかに入所してもらって、時々、訪ねていけばいいと考えを改め、母にとっても私と角突き合わせているより、いい環境の中で過ごせるのではないかなと思ったりして。

しかし費用の安い特養だとい何年も待たねばならず、一方、すぐ入所できる老人ホームは費用が高い。順番待ちをしている間に、今度は私自身が入所しなければならぬ可能性だってある。はてさて、どうしたものやら。悩み多き老々介護である。

恭子の日記

ラオスの子どもたちへ

「夢」を運んだ旅

今年6月、恒例の銀座での展示会の時だった。80歳を過ぎる児玉さんという方が私の絵の前でじっと立って見入っておられた。そして、1枚の



ラオスを訪れた一行と出迎えて下さった行政の方たち（うしろは児玉ご夫妻が私財を投じて建設した新校舎）



新しいTシャツを着て感謝と幸せに満ちた笑顔の子もたちと中田恭子さん

中田恭子さん制作の 来年のカレンダー

一枚1500円で販売し、売り上げはラオスなどの貢献に使われます



写真を見せてくださった。壁が壊れ雨風が吹くと休校になる小学校の写真だった。そのひどい有様を見た児玉ご夫妻は私財を投じてラオスの子どもたちのために小学校を建てておられるという話だった。

児玉さんの心は、「愛のバトンリレー」という私の絵に共鳴なさったようだった。私は「ラオスの子どもたちのためにこの絵でよければ寄贈します」と言った。浅草の友人と制服の代わりに、300人のラオスの小学生にTシャツを作ろうという話になった。私はシャツの胸にラオスの地図、産物のトウモロコシと稲、恵みの光を放つお坊さんを描いた。大勢の友人の協力でできたシャツは手渡しで届けなければと、主人も一緒に同行をしてくれた。

子どもたちはいつもの間にか列を作って並んでいた。一人一人拝むように手を合わせてもらってくれた。靴もない子もいた。日本から見ると不由に見えるラオスだが、素直に感謝のできる子どもたちの顔がなんだかとても幸せで素敵に見えた。タイのバンコクから小さなプロペラ機に揺られながらメコン川を渡った。舗装されて

いないガタガタ道を右に左に揺られながら車をはしごしてやっと到着。文明社会にどっぶりつかっていた私は少し疲れた。だけど児玉夫人は車椅子なのに、ご夫婦支えあって同行なさって心打たれた。扇風機が各教室につけられ、ラオスのどこより立派な壁や窓。雨の音に悩まされないように屋根には瓦が使われていた。

次の日は門から新校舎まで、野道の花を手を持ってきれいに並んだ子どもたちが出て迎えてくれた。村長、町長、市長、県知事、大臣まで見えて、みんなで驚いたり喜んでくださった。悪びれたり、白けたりする子はなく、「感謝」に満ちた仏教国を感じた。恵まれた日本を改めて振り返り、人の幸せは何かを深く考えた旅だった。児玉さんが運んだ未来へ続く「夢」の旅に同行してたくさん考えることがあった。天に徳を積むお手伝いをしてくれ、心を合わせて支えてくれる仲間がいて出来た「夢の懸け橋」、心から感謝をしている。

仏画家(画柳会理事)中田恭子